

## 指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

# 3 公 民

### <目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(現代社会) <例>	P 3～5
III	「評価規準と単元計画」(現代社会) <例>	P 6～8
IV	「学習指導案」(現代社会) <例>	P 9

# I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

## 1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

## 2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨  
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとめりごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・内容のまとめりごとの目標  
…学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとめりごとの評価規準  
…内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとめり」について

- ・現代社会においては、学習指導要領の内容（1）、（3）については大項目を内容のまとめりとし、内容（2）については中項目（例：「(2)ア 青年期と自己の形成」）などの中項目を内容のまとめりとするのが考えられる。
- ・「内容のまとめり」は、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準  
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

◎指導と評価の計画に、「ねらい、MQ」「学習活動」「評価の観点」「評価規準等」を示す。

- ・ねらい、MQ …授業におけるねらいと、主とする発問を示す。
- ・学習活動 …主な学習活動を示す。
- ・評価の観点 …4観点のうち、記録に残す評価など、授業における主な評価の観点を示す。
- ・評価規準等 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

< 単元ごとの指導と評価の計画例 >

※国立教育政策研究所が作成している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 公民）」を参考に願います。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>

単元の名前 「〇〇〇〇」

□単元の目標（学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正して記述）

〇〇・・・・・・・・・・。

□単元の評価規準（評価規準の設定例を参考に作成）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・

□指導と評価の計画

●は記録に残す評価

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 1 時 間 扱 い）	1 〇〇〇〇 【ねらい】 〇〇・・・・・・・・・・。 【MQ】 〇〇・・・・・・・・・・。					
	・・・・・・・・・・。			●		②〇〇・・・・・・・・・・。

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

## 年間学習指導計画 現代社会（第1学年・全学科）

科名	公民科（現代社会）	教科書名	高等学校 ○○○○	発行社	○○○○	単位数	2
目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題について自己との関わりからスタートし、様々な観点から追求する学習を通していかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。新聞記事の活用も取り入れる。</li> <li>・現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業・金融機関の働き、公的部門の役割と租税などを理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。</li> <li>・基本的人権の保障と法の支配、平和主義とわが国の安全について理解を深めさせ、民主政治における個人と国家について考えさせる。また生命の尊重、人間の尊厳と平等、法と規範などについて考えさせ、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</li> <li>・世界の主な国の政治・経済の動向に触れながら、人権、国家主権、人種・民族問題などについて理解させ、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。</li> </ul>						

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	観察、生徒との対話、ワークシート、レポート、生徒による自己評価
思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	グループやペアワークでの発言、レポート、考査問題
資料活用の技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	ワークシート、レポート
知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	生徒との対話、考査問題

月	単元・項目	時数	単元を貫く目標	主な学習活動	評価方法
4月	第1編 私たちの生きる社会 ①環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発達と私たちの生命 ④高度情報社会	4	生徒が諸資料を用いて、現代の諸課題を理解し、自分の言葉で表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の様々な課題を概観する。</li> <li>・地球温暖化対策や情報化の進展の考察を通して、幸福、正義、公正といった社会の在り方を考察する基盤を身に付ける。</li> <li>・科学技術の発達が医療や生命、倫理に及ぼす影響と課題について考察する。</li> </ul>	行動観察 ペアワーク、グループワーク、ノートへの記入
	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③伝統や文化のかかわり		4	生徒が自分と他者の意見を比較しながら自己を見つめ直し、友人、家族、学校、社会などとの関係を考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代に生きる青年として、日々の生活の中で具体的に当面する心理的、社会的な問題や適応と個性の形成などについて理解し、自己の生き方について考える。</li> <li>・職業のもつ意味、人が社会に参加することの意義について考え、生涯にわたって学習していくことの意義を考える。</li> </ul>

6 月	第2章 個人の尊重と法の支配 ①個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界の政治体制	2	生徒が法と道徳の関係を考察する活動を通じて、あらゆる規範意識を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの人生に法がどのように関わっているのかを概観し、国家と私たちの関係について考察する。</li> <li>近代民主主義思想の背景となった社会契約の考え方、法に支配の意義、基本的人権が拡大されていった経緯について理解する。</li> </ul>	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p>
	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②冷戦終結後の防衛問題 ③基本的人権の保障 ④新しい人権と公共の福祉 ⑤国会の運営と権限 ⑥内閣と行政の民主化 ⑦裁判所と人権保障 ⑧法と私たちの生活 ⑨地方自治と住民の福祉 ⑩選挙制度の現状と課題 ⑪世論の形成と政治参加	12	生徒が民主政治の意義としくみを理解することで、政治参加や世論形成などの活動に結び付けられるような意欲付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法は明治憲法とどのような点で異なっているか、諸資料より読み解き、日本国憲法の三つの基本原理が目指すものについて理解を深める。</li> <li>基本的人権の保障と公共の福祉について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察する。</li> <li>国民主権や議院内閣制、司法権の独立の必要性としくみを理解する。</li> <li>現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。</li> <li>地方自治の本旨、地方自治の新たな展開について理解し、身近な地域の諸問題について考察する。</li> <li>選挙が民主政治にとって重要な意味をもつことを理解し、政治参加への関心を高める。</li> </ul>	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>調べ学習</p> <p>1学期期末考査</p>
7 月					
9 月	第4章 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③冷戦終結後の国際社会 ④地域紛争と民族問題 ⑤領土問題	8	生徒が国際社会における政治を理解することで、今後の課題を具体的に論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の歴史を概観しながら、国家の役割について理解する。</li> <li>戦後の国際政治、核兵器の問題、民族紛争、領土問題などについて新聞等のマスメディアを活用しながら情報を収集し、国際社会についての関心を高める。</li> <li>国際社会における日本の役割について考察する。</li> </ul>	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>調べ学習</p>
10 月	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済体制の変容 ②現代の企業 ③市場の仕組み ④経済成長と景気変動 ⑤財政のしくみと税金 ⑥金融機関のはたらき ⑦戦後日本経済のあゆみ ⑧産業構造の変化 ⑨中小企業の現状と役割 ⑩食の安全と日本の農業 ⑪雇用と労働問題 ⑫消費者問題 ⑬社会保障と福祉社会	23	生徒が経済社会の諸事象から課題を見出す学習を通じて、多面的・多角的に事象が捉えられるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済の概念は日常生活の身近なところで現れていることに気づき、その構造について理解を深める。</li> <li>財政の機能と役割、課題について理解し、政府や日本銀行が、景気対策としてどのような政策を行ったらよいかを考察する。</li> <li>日本経済の今後について考察する。</li> <li>産業構造の変化、中小企業の役割、日本の農業政策について理解を深め、今後の日本の課題について意見を交流する。</li> <li>戦後の経済民主化の内容を調べ、それがもたらした意義について考察する。</li> <li>高度経済成長のきっかけと要因について諸資料を用いて調べる。</li> <li>商品の供給に際して企業がもつ社会的責任を理解する。</li> <li>経済の二重構造について理解する。</li> </ul>	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>2学期中間考査</p> <p>2学期期末考査</p>
11 月					
12 月					

1 月	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際分業と貿易 ②国際経済体制 ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域経済統合 ⑥途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	12	生徒が国際社会における経済の動向に触れながら、国際社会における日本の果たすべき役割を論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済の動向を概観しながら、自由貿易と保護貿易の違い、為替相場の変動が及ぼす影響、南北問題などについて考え、今後期待される日本の役割を考える。</li> <li>・F T AやE P Aなど地域的経済統合や経済協定の効果について考え、現代の抱える問題について考察する。</li> <li>・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国の抱えている問題について理解する。</li> <li>・国際協力のあり方、国際経済の中の日本の役割について考える。</li> </ul>	行動観察 ペアワーク、グループワーク ノートへの記入 新聞記事の活用
2 月	第7章 民主社会に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③西洋社会の考え方	3	生徒が先哲の思想や生き方、宗教的信念に触れることを通じて、自らの現実を省みることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な悩みから先哲の思想、宗教の役割を理解し、人生を豊かに生きることについて考える。</li> <li>・差別や偏見について考え、それを克服して他者とともに生きるために意識すべきことを考える。</li> <li>・人権の根拠とされる人間の尊厳について考える。</li> </ul>	行動観察 ペアワーク、グループワーク ノートへの記入
3 月	第3編 ともに生きる社会をめざして ①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物か水産資源か ③人口問題と未来	2	生徒が現代社会の諸課題を様々な立場から考察する活動を通じて、そこで起こりうる衝突やその解決の方法について意見を論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障と消費税、捕鯨、人口問題について新聞やインターネットを活用してデータを収集し、それぞれの問題について自分の意見を論述しながらディベートを行い、今後の対策を考察する。</li> </ul>	行動観察 ディベートへの参加 学年末考査

合計時間数 70 時間

## 単元指導計画

単元の名前	現代の民主政治と政治参加の意義
-------	-----------------

### □単元の目標

民主政治の基本原理に基づきながら、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解するとともに、民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国家を中心に考察し、また、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察する。

### □単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①現代の民主政治と政治参加に対する関心が高まっている。 ②民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について考察しようとしている。 ③法の役割や地方自治に触れながら政治と生活との関連性に気付き、公正な態度で考察しようとしている。	①現代の民主政治と政治参加から課題を見いだしている。 ②現代の諸課題について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 ③思考・判断の過程や結果を自分の言葉で他者に発表し、ノートやワークシートにまとめることができている。	①現代の民主的に関する情報を様々なメディアを通して収集している。 ②収集した情報の中から民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用している。 ③資料を用いながらそれぞれの立場について多角的に考察し、話し合いの中でそれらを活用することができる。	①国会を中心とする民主政治の仕組みや、議会制民主主義の意義、国会と内閣の関係について理解し、その知識を身に付けている。 ②民主政治における権力分立の意義やその過程について理解を深め、その知識を身に付けている。 ③民主政治の下では、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになることを理解し、その知識を身に付けている。

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等	
		関	思	技	知		
第一 次 (1時間 扱い)	<p>1 国会の運営と権限</p> <p>【ねらい】 議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会の権限について理解させる。</p> <p>【MQ】 国民主権を実現するために、日本にはどのような仕組みがあるのだろうか。</p>					●	<p>①国会の役割と権限を理解しながら、二院制の意義や衆議院の優越について理解している。</p> <p>②法律が国民の代表機関である国会によって成立していることを確認し、主権者としてどのように政治に関わっていくのかを考察しようとしている。</p>
第二 次 (1時間 扱い)	<p>2 内閣と行政の民主化</p> <p>【ねらい】 議院内閣制や内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要かを考えさせる。</p> <p>【MQ】 内閣と国会の関係はどのように定められているのだろうか。また、国民のための政治を行うために必要なこととは何だろうか。</p>					○	<p>①内閣の仕組みを国会の権限と関連付けて理解している。</p> <p>①新聞記事を活用し情報を収集している。</p> <p>①話題になっている政策について関心をもつ。</p>
第三 次 (2時間 扱い)	<p>3 裁判所と人権保障 / 4 法と私たちの生活</p> <p>【ねらい】 日常生活の中での法の役割について考えさせ、司法権の独立や裁判員制度について理解させる。</p> <p>【MQ】 基本的人権の保障が個別に実現されるために必要なこととは何だろうか。</p>	<p>●</p>				○	<p>②裁判所の役割とその意義について理解している。</p> <p>②裁判員制度に参加する際の心構えを作り、罪と罰に向き合う態度を形成している。</p> <p>②住環境に関わる対立状況の解決について、幸福、正義、公正などの観点から考察している。</p> <p>③考察の過程や結果をノートやワークシートに適切に記入している。</p>
	<p>ある人の幸福</p> <p>快適な生活</p> <p>対立</p> <p>×</p> <p>公正</p> <p>ある人の幸福</p> <p>快適な生活</p> <p>解決策を考える ⇒ 正義について考える</p>	○				○	

<p>第四次 (2時間扱い)</p>	<p>5 地方自治と住民の福祉</p> <p>【ねらい】地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について考えさせる。</p> <p>【MQ】自分の住む地域が抱えている課題を解決するために、必要なこととは何だろうか。</p> <p>・統計より地方自治の課題を理解し、地域社会の一員としてどのような参加方法があるか考察する。</p> <p>・多治見市のまちづくりについて幸福、正義、公正などの観点からグループ学習を通して考察し意見をまとめる。</p> <p>解決策を考える ⇒ 正義について考える</p>
<p>第五次 (1時間扱い)</p>	<p>6 選挙制度の現状と課題</p> <p>【ねらい】国会議員の選挙制度はどのような仕組みで、何を課題としているのかを模擬選挙を通して考えさせる。</p> <p>【MQ】現在の日本の選挙制度の課題とは何だろうか。</p> <p>・衆議院議員選挙を例にとり、個人名と政党名の投票によりどのように選出されるのかをシミュレートし、ドント方式による議席配分を計算式で求める。</p> <p>・マスメディアから情報を収集し、一票の格差をめぐる問題について幸福、正義、公正などの観点から考察し、選挙制度の課題について自分の考えを表現する。</p> <p>解決策を考える ⇒ 正義について考える</p> <p>・公職選挙法について調べ学習を行う。</p>
<p>第六次 (1時間扱い)</p>	<p>7 世論の形成と政治参加</p> <p>【ねらい】政党や圧力団体を理解するとともに、参政権の実現にはどのような方法があるのかを考えさせる。</p> <p>【MQ】国民が政治に参加するためには、どのような方法があるのだろうか。</p> <p>・政党や圧力団体が果たす役割について理解する。</p> <p>・政治的無関心の問題から、国民が主権者であることの意義を考える。</p> <p>・現代の社会にはどのような政治参加の方法があるか意見交流をする。</p>

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

# 学習指導案

日時	平成〇年〇月〇日(〇)第〇限	指導クラス	1年〇〇科(男子〇名、女子〇名)	指導者	〇〇 〇〇
教科(科目)	公民(現代社会)	単元名	地方自治と住民の福祉(6時間目/8時間)		
教科書	『高等学校 〇〇〇〇』(〇〇〇〇)				
本時の主題	地方自治の課題				
本時の目標	統計やグラフ、新聞記事を活用して、多治見市のまちづくりについて幸福、正義、公正などの観点から考察させる。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計やグラフ、新聞記事などの資料を活用して、多治見市の課題に対するメリットとデメリットを読み取ることができている。</li> <li style="text-align: center;">【資料活用の技能】</li> <li>・多治見市のまちづくりに関わる対立状況の解決について、幸福、正義、公正などの観点からグループワークを通して考察し、その過程や結果を自分の言葉でノートやワークシートに適切に記入している。【思考・判断・表現】</li> </ul>				
指導の内容・ねらい		学習活動		指導上の留意点・観点別評価	
導入	前時の復習	<p>&lt;発問①&gt;</p> <p>多治見市が全国に向けてアピールできるものには何があっただろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に学習した多治見市の産業について簡単に復習する。</li> <li>○多治見市の陶磁器産業に関わる資料を用いて考察する。陶磁器についてはマイナス成長だが、タイルはプラス成長であることに注意する。</li> <li>○多治見市がトヨタの研修施設やアマゾンの物流センター建設といった企業誘致を実行していることを確認する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○陶磁器産業に関わる事業所数と従業者数の変化、出荷額のグラフを提示する。(グラフは経済産業省「工業統計調査」より作成)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(評価方法)</p> <p>グラフより、多治見市の陶磁器産業の変化を読み取る。【技能】</p> </div>	
展開	本時のMQの提示	<p>&lt;本時の課題&gt;</p> <p>多治見市の産業を発展させていくためにより大切なのは、窯業か、企業誘致か。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○多治見市のまちづくりを本時の課題に設定することで、生徒の身近なところから考えさせる。</li> <li>○理由については、個々の価値観で自由に表現させる。</li> </ul>	
	個人の価値観の表現	<p>※幸福の対立：伝統である窯業⇄新たな企業誘致</p> <p>※正義：多治見市を暮らしやすいまちにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意見とその理由をノートに記入する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員に意見発表する機会を与えるために、グループ学習を行う。</li> </ul>	
	他者の価値観の理解・意見の統合	<p>【グループ学習(4人1組)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループに分かれ、一人当たりの持ち時間30秒で意見交流を行う。意見交流の後、多治見市のまちづくりに必要なのは窯業か、企業誘致か、グループとしての意見を一つにまとめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイムキーパーは教師が行い、意見交流の進行はリーダーが中心となって行うことに留意させる。</li> </ul>	
	資料の活用、資料を根拠にした意見の表現	<p>&lt;発問②&gt;</p> <p>資料を参考にして、その立場のメリットとデメリットについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を活用しながら、それぞれの立場のメリット(期待できること)をピンク色の付箋に、デメリット(不安なこと)を青色の付箋に書いて、意見交流しながらワークシートに貼っていく。</li> <li>○窯業を守ることのメリットとデメリット、企業誘致をすすめることのメリットとデメリットについて、代表のグループが発表する。</li> <li>→それぞれの立場のメリット、デメリットを全員が理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料とワークシートを配布する。</li> <li>○付箋は1人各色2枚ずつ配布し、それ以上書ける場合は枚数を増やすように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(評価方法)</p> <p>資料よりメリットとデメリットを読み取り、自分の意見を付箋に表現して、それらをグループでまとめることができる。【技能】</p> </div>	
まとめ	公正についての考察	<p>&lt;発問③&gt;</p> <p>両者のメリット・デメリットを踏まえ、多治見市を発展させていくために必要なことは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幸福の対立に対して、調整や解決を図っていくために最も適切な解決策を自分のノートに記入する。</li> <li>○最後にワークシートを提出する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの意見を考察させる際、これは正解を導き出すものでないことに留意させる。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(評価方法)</p> <p>課題に対する結論を自分の言葉で適切に表現し、グループでまとめることができる。【思考・判断・表現】</p> </div>	